

# 初対面会話の台湾・日本の対照分析

## —女子大生の場合（中間報告）—

張 瑜珊

### 1. 研究動機

留学生が増加するにつれて、日本人学生と台湾人留学生がコミュニケーションする機会が増え、そして相互に人間関係を築く必要性などが求められてきている。しかし、そのような中、大勢の留学生から「日本人の友達ができない」ということをよく耳にする。心理学者 Berg & Clark (1986) は親密な対人関係は関係形成のごく初期に形成されていると主張している。また、初対面会話そのものが印象形成に繋がると小川 (2000) も述べている。そのため、台湾人留学生と日本人間の初対面会話が双方に良い印象形成をもたらすよう、台湾と日本それぞれの母語場面と接触場面における初対面会話の異同を明らかにする必要性があると考えた。

### 2. 研究目的

本研究は、接触場面の基礎研究として、台湾人と日本人の母語場面での初対面会話では何が話され、どのように会話が進められているかを明らかにすることを目的とする。その異同を明らかにすることで、お互いの初対面会話の実態をそれぞれの目標言語学習者に明示し、台湾人对日本人の中国語、あるいは日本語の接触場面における人間関係形成の初期段階における心得として示唆したいと考える。

### 3. 研究課題

以上の研究目的を踏まえ、次のような研究課題を設定した。

課題 1：台湾・日本の女子大生の初対面会話の流れの構成には差異があるか。

課題 2：台湾・日本の女子大生の初対面会話の各構成の内容には差異があるか。

### 4. 調査方法

#### 4.1 協力者と調査時期

本研究は日本のお茶の水女子大学の女子学部生 20 名と台湾の東呉大学の女子学部生 20 名、それぞれ 10 ペアの協力を得た。調査時期については、日本は 2004 年 6 月初旬と中旬、台湾は 2004 年 6 月の下旬である。

#### 4.2 調査手順

##### (1) 協力者募集

「人と人の中でどのようにコミュニケーションするか」の目的で、会話の録音を許可する学生を募集した。実験経験を学習させないため、協力者全員に一回のみの協力を求めた。

##### (2) ペアの組み合わせ

協力者の専攻、学年、応募ルートなどを考慮した上、初対面となるようペアの組み合わせ作業を行った。さらに、上下関係が一致するよう、学年の間隔が 2 年以上あかないようにした。

##### (3) 本実験

本実験には二つのセッションが含まれている。

##### ① 20 分 + $\alpha$ の自由会話

日常生活の会話に近い雑談のデータを収集するため、自由会話をさせた。時間は 20 分という設定があったが、ペアの状況によって、終了時間は不一致である。

##### ② 会話の感想とフェイスシートの記入

会話の終了後すぐ、会話の感想とフェイスシートが含まれているアンケートの記入を求めた。アンケートは日本語版と中国語版がある。

##### (4) 文字おこしとそのネイティブチェック

文字おこし作業は録音、録画データを参照しながらすべて調査者が行った。日本語データに関しては、日本語母語話者に音声データを聞かせながら、ネイティブチェックを依頼した。

## 5. 分析方法

### 5.1 分析対象

Barnlund(1989)のアンケート調査では 61%のアメリカ人と 50%の日本人が、初対面の人と会話する一番短い時間は 5 分間以内という結果が見られたことが指摘されている。そのため、本研究は初対面会話の最も平均的な時間—開始から 5 分間を分析対象とした。

### 5.2 分析方法

宇佐美・嶺田(1995)の日本人の初対面会話の構成をベースにし、分析対象とした会話データを各構成に区分した。宇佐美・嶺田(1995)による会話の構成によると、どの会話も大きく「導入部」「展開部」「終結部」で構成されている。さらに、導入部は「あいさつ」「自己紹介部」「前段展開部」の三つに分けることができる。終結部には、「前段終結部」と「あいさつ」が見られる。本研究の分析対象は 20 分会話の開始の 5 分間しか扱わなかったため、会話は導入部から展開部の一部のみの構成を含むと考えられる。

## 6. 研究結果

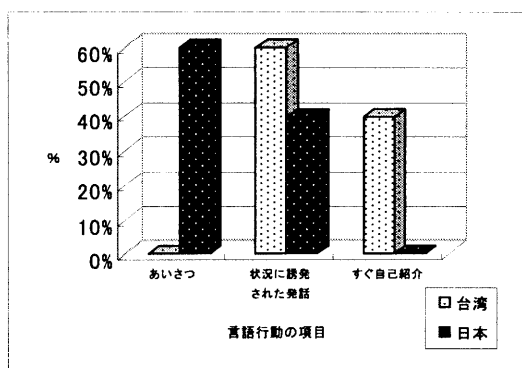
### 6.1 研究課題 1 の結果

日本グループの初対面会話には宇佐美・嶺田(1995)と同じく、導入部の中にあいさつ部、自己紹介部、そして前段展開部の構成が見られた。そして、会話は展開部へと進んでいった。日本グループの会話例は稿末資料 1 を参照されたい。台湾グループの初対面会話の構成については、導入部内にはあいさつ部と自己紹介部が観察されたが、前段展開部に相当する部分は認められなかった。つまり、台湾グループは自己紹介部を終了してから、前段展開を行わずに会話を展開部に進展していく。会話例を稿末資料 2 に示す。

### 6.2 研究課題 2 の結果

#### (1) あいさつ部について

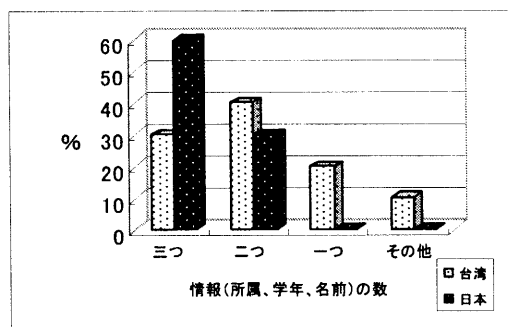
図 1 が示すように日本グループでは「(はじめまして) よろしくおはよう」「こんにちは」などの定型的なあいさつが観察された。一方、台湾グループの方は「ちょっと気まずいですよね」などのような状況によって誘発された感想を表す発話が多かった。



【図 1 台湾・日本のあいさつ部の中の言語行動】

#### (2) 自己紹介部について

台湾グループ・日本グループともに、自ら情報を提示する方法と相手からの要求に応じて提供する方法で自己紹介が行われていた。さらに、台湾・日本とも所属(学部/学科)、学年、名前の情報交換が見られた。しかし、自己紹介の中での交換した情報の数は台湾・日本の間でばらつきが見られた。つまり、日本グループの方は一遍に所属、学年、名前という三つの情報を提供/要求する傾向があった。しかし、台湾の方は情報を二つ提供/要求することが多かった(図 2)。



【図 2 自己紹介部の基本情報の交換数】

## 7. まとめ

(1) 台湾・日本の女子大生の初対面会話は、導入部の中の前段展開部の有無の差が見られた。

(2) 会話のあいさつ部の部分では、日本グループは定型的なあいさつの使用が多く、台湾グループは状況から誘発される発話が多かった。

(3) 日本グループの自己紹介部に必要とする情報は台湾グループより多かった。

## 8. 今後の課題

本稿は中間報告であるため、研究課題2についてのすべての結果はまだ明らかになっていない。展開部の内容について、台湾・日本の異同を判明することは今後肝要であろう。そして、構成面での「前段展開部」がどのような役割を担っているかを検討するつもりである。

### 参考文献

宇佐美まゆみ 嶺田明美 (1995) 「対話相手に応じた話題導入の仕方とその展開パターンー初対面二者間の会話分析よりー」『名古屋学院大学日本語学・日本語教育論集』 2号 130-145

小川一美 (2000) 「初対面場面における二者間の発話量のつりあいと会話者および会話に対する印象の関係」『名

古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 (心理発達科学)』 47巻 173-183

樋口斉子 (1997) 「初対面会話での話題の展開」『日本人の談話行動のスク립ト・ストラテジーの研究とマルチメディア教材の試作』 75-109 西郡仁朗 宇佐美まゆみ 文部省科学研究費基盤研究 (C) 研究成果報告集

Barnlund, D. C. (1989) Chapter 4: A World of Strangers *Communicative Styles of Japanese and Americans: Images and Realities* 53-71 Wadsworth Publishing Company Belmont, California

Berg, J. H. & Clark, M. S. (1986) Difference in Social Exchange between Intimate and Other Relationships: Gradually Evolving or Quickly Apparent? *Friendship and social interaction* V.J. Derlega & B.A. Winstead (Eds.) 101-128 Springer Verlag New York

ちょう ゆさん／お茶の水女子大学大学院 日本語教育コース  
yusan52@gmail.com

### 稿末資料1

Y: よろしく [お願いします。 H: [お願いします。	あいさつ部
Y: と:、(1) [何学部で? H: [あっ、じゃ、所属ですね。所属は生活科学部の、あのう、文系の方の人間 (え) 生活の生社の中の二年です。 Y: あっ、私は人文 (はい) 科学科一年 [今年の四月入学。 H: [あっ、一年生。 Y: はい。 H: あっ、名前言ってなかった (HHH)。【苗字】っていいいます。 Y: よ [ろしくお願いします。 H: [よろしくお願いします。人文の中の?	自己紹介部
Y: えっと、まだ専攻は決まって (あ: :) ないんですよ、一年だから。でも、哲学 (うん) の (うん) 勉強をしてやりたいなと思って (あ: :) あと、他のものいろいろやりたいことがあるから、総合コースに進もうかな (あ: : :) と思ってるんですよ。 .....略.....	前段展開部
H: えっ、じゃ、T先生とかは知って来て・・・ Y: あっ、知らなかったですよ HHH。 H: HHH、知らなかった。	展開部

### 稿末資料2

L: 好害羞哦.	あいさつ部
----------	-------

<p>(ちょっと恥ずかしいですね)</p> <p>Y: 對阿. 噯, (.) 我是英文系二年級的學生, 二升三的學生.</p> <p>(そうですね, 私は英文の二年生です. 三年生に上がります)</p>	
<p>L: 哦.</p> <p>(おう)</p> <p>L: 哦.</p> <p>(おう)</p> <p>Y: 對.</p> <p>(はい)</p> <p>L: 我是歷史系要一升二, 對阿.</p> <p>(私は歴史学科で、一年から二年に上がります)</p> <p>Y: 真的哦.</p> <p>(あつ、本当ですか)</p> <p>L: 對, 噯噯噯.</p> <p>(あ、はいはいはい)</p>	自己紹介部
<p>Y: 你怎麼知道會有就是這個? 就是這個活動.</p> <p>(どうしてこれを知っていますか? この、この活動?)</p> <p>L: 哦, 就是有在那個, 網路上有看到. 然後我們班同學也是有一張傳單這樣.</p> <p>(あ。それは、それは、インターネットで見ました。そして、うちのクラスメートから一枚のチラシが回ってきました)</p> <p>Y: 哦, 這樣子.</p> <p>(あ、そうですか)</p> <p>L: 對阿.</p> <p>(はい)</p> <p>Y: 哦, 因為我在招生組打工拉, 然後那邊就是, 就是有工讀生跟我說. 然後, 反正就是, 就是(噯)來做個訪問什麼之類的.</p> <p>(おう、私は、私は入試課のところでアルバイトをしています。そして、あそこから、あるアルバイトの人からこれを聞きました。まあ、インタビューぐらいならと思って、来ました)</p> <p>L: 噯噯噯.</p> <p>(うん、うん、うん)</p> <p>Y: 對阿對阿對阿.</p> <p>(はい、そうです)</p> <p>L: 對阿.</p> <p>(はい)</p> <p>Y: 哦, 剛考完, 上禮拜很累很累.</p> <p>(おう、試験が終わったばかりで、先週はすごく疲れていました)</p> <p>.....略.....</p>	展開部